

農学研究科

総合生存学館を志望する者は、農学研究科修士課程一般入試のみ受験可能である。

以下の情報は、令和7年度農学研究科修士課程学生募集要項に基づいて、総合生存学館志願者向けに作成した事項である。

1. 出願書類（研究科別）

P.8 記載の（2）二次出願書類（共通）と併せて、第一次試験で農学研究科を受験する者は以下の研究科別の出願書類を提出すること。

英語力検定試験成績表 の <u>原本</u>	出願開始日から2年前（2022年7月8日）以降に受験したTOEFL iBT、IELTS（アカデミック・モジュール）（以下、IELTS）またはTOEIC L&R（※対象専攻のみ）のスコアの <u>原本</u> を提出してください。 TOEFL iBTスコアが55点以上、IELTSスコアが4.5以上、 TOEIC L&Rが650点以上のうち、 少なくとも1つの要件を満たす場合に出願が可能です。 （※）TOEIC L&Rは森林科学専攻、応用生命科学専攻、応用生物科学専攻及び地域環境科学専攻の出願者が対象です。農学専攻、生物資源経済学専攻及び食品生物科学専攻の出願者はTOEIC L&Rの提出は認められません。 スコア提出の詳細は、下記の「TOEFL等スコア（TOEFL iBT、IELTS、TOEIC L&R）の提出に関する注意事項」を参照してください。 スコア原本は受験票送付時に返却します。
卒業論文概要書又は実験、 実習、演習概要書	A4横書き1,000字以内で作成し、志望専攻・専門種目・氏名を付記してください。（様式自由）

二次出願書類（共通）及び（研究科別）の郵送

受付期間：2024年7月8日（月）～2024年7月12日（金）午後5時（必着）

提出先：〒606-8306 京都市左京区吉田中阿達町1

京都大学大学院総合生存学館教務掛

TEL (075)762-2002, 2010

注）郵送は、書留速達便・レターパックプラス等の安全な手段によるものとし、封筒の表に「総合生存学館一貫制博士課程募集（2025年4月期）出願書類在中」と朱書（レターパックプラスの場合は「品名」に記載）のうえ、上記提出先へ送付すること。なお、提出された出願書類に不備があれば、総合生存学館教務掛から問い合わせることがある。

TOEFL 等スコア（TOEFL iBT、IELTS、TOEIC L&R）の提出に関する注意事項

- 各自でTOEFL iBT、IELTS または TOEIC L&R（※対象専攻のみ。詳細は「1. 出願書類（研究科別）」を参照）の申し込み手続きを行い、受験してください。
TOEFL iBT、IELTS 及び TOEIC L&R テストの受験に必要な費用は各自で負担してください。
- 出願時には、TOEFL iBT は Test Taker Score Report の原本を、IELTS は公式成績証明書の原本を、TOEIC L&R は個人用公式認定書の原本又はデジタル公式認定証を各自で印刷したものを出願時に提出してください。
スコアの公開が通常より数週間遅れる場合がありますので、余裕をもって受験してください。
なお、原本が出願時に間に合わない場合は、その旨を明記した書面及びWEB上のスコア確認ページのコピーを提出してください。原本が交付され次第、原本とその返送用封筒（長形3号の封筒に434円分の切手を貼り、返送先住所を記載したもの）を2024年8月6日（火）必着で持参又は郵送「簡易書留」により提出してください（持参の場合返送用封筒は不要です。）。2024年8月6日（火）までに原本が間に合わない場合は、同日までに総合生存学館教務掛へ連絡してください。
- 提出したスコアの原本は受験票とともに7月下旬に受験者に返送します。
- TOEFL iBT、IELTS 及び TOEIC L&R をあわせて複数回受験している場合、そのうちいずれ

か1つのスコアを提出してください。なお、TOEFL iBT のスコアについては、MyBest スコアを活用せず、Test Date スコアを活用します。

5. 出願開始日から2年前(2024年8月実施の入試の場合は、2022年7月8日)以降に受験したTOEFL iBT、IELTS 及び TOEIC L&R テストのスコアに限り提出が可能です。団体試験用のTOEFL ITP のスコアは受け付けませんので注意してください。
6. TOEFL iBT 等のスコアについて、不正が判明した場合は失格とし、入学後であっても、過去に遡って合格を取り消します。

2. 学力検査日程

月日	時間	試験科目	場所
8月21日(水)	10:30～12:00	専門科目(1)	京都大学農学研究科 京都市左京区 北白川追分町 (市バス「京大農学部前」下車)
	13:30～15:00	専門科目(2)	
8月22日(木)	10:00～17:00	面接※ ¹	
8月23日(金)	予備日※ ²		

※1 面接時間・場所等の詳細については、総合生存学館教務掛からお知らせします。

※2 台風接近時等、試験が予定通り実施できない場合、予備日に試験を実施します。

2025年度京都大学大学院農学研究科修士課程入学試験
専 門 科 目 出 題 説 明

専攻	出 題 説 明										
農 学	専門科目(1)は、作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、雑草学、栽培システム学、品質設計開発学、品質評価学、植物生産管理学、細胞生物学から各1問、基礎的な内容を出題する。そのうち4問を選択し、解答する。“細胞生物学”に関する問題では、『Essential細胞生物学』に準ずるような、広く使用されている教科書の中で扱われている事項全般に対する基礎学力を問う。 専門科目(2)は、農学分野の学習・研究を行うに当たり必要となる学術英語に関する専門知識を問う共通問題および各専門種目（作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、雑草学、栽培システム学、品質設計開発学、品質評価学、植物生産管理学）から出題する。“学術英語に関する専門知識”とは、農学分野の学術論文や総説の読解力のことである。 ※専門種目については第1志望の専門種目についてのみ解答すること。										
森 林 科 学	専門科目(1)は、森林科学一般から出題する。 ※森林科学一般の問題は、森林科学の基礎的内容に関する共通問題である。 専門科目(2)は、各専門種目（森林・人間関係学、熱帯林環境学、森林生態学、森林利用学、森林生物学、環境デザイン学、山地保全学、森林水文学、生物材料設計学、林産加工学、生物繊維学、樹木細胞学、複合材料化学、生物材料化学、森林生化学、森林情報学、森林育成学、材料生物学、生物機能材料学、循環材料創成学、居住圏環境共生学、木質構造科学）から出題する。 ※専門科目(2)は第1志望の専門種目についてのみ解答すること。										
応 用 生 命 科 学	専門科目(1)は、「応用生命科学」分野の学習・研究を行うに当たり必要となる基礎知識について、生化学および有機化学に関する基礎的問題を出題する（全問解答のこと）。 “基礎的問題”とは、『ヴォート基礎生化学』や『マクマリー有機化学－生体反応へのアプローチ』に準ずるような、全国的に広く使用されている教科書の中で扱われている事項全般に関する基礎的学力を問うものです。 専門科目(2)は、「物理化学」、「有機化学」、「生化学」、「応用微生物学」、「植物科学」の5領域から出題する（1領域を選択し解答する）。 各領域の出題範囲は次表の通りです。 <table border="1"> <tbody> <tr> <td>物 理 化 学 領 域</td><td>①酸塩基反応 ②酸化還元反応 ③基礎化学熱力学 ④反応速度（酵素反応を含む）⑤生体高分子の立体構造</td></tr> <tr> <td>有 機 化 学 領 域</td><td>①反応機構 ②有機合成 ③有機化合物の構造解析 ④生理活性物質の化学と作用</td></tr> <tr> <td>生 化 学 領 域</td><td>① 生体分子（核酸、アミノ酸、糖、脂質） ②タンパク質の構造と機能 ③酵素反応 ④代謝（グルコース、グリコーゲン、クエン酸サイクル、電子伝達と酸化的リン酸化、脂質）⑤生体膜と膜輸送 ⑥DNAの複製、転写と翻訳 ⑦細胞の情報伝達</td></tr> <tr> <td>応 用 微 生 物 学 領 域</td><td>①分類・細胞構造 ②生理・生態 ③代謝・酵素 ④遺伝・ゲノム情報発現 ⑤発酵生産・バイオコンバージョン</td></tr> <tr> <td>植 物 科 学 領 域</td><td>①植物細胞の構造 ②植物の無機栄養元素 ③光合成 ④二次代謝</td></tr> </tbody> </table>	物 理 化 学 領 域	①酸塩基反応 ②酸化還元反応 ③基礎化学熱力学 ④反応速度（酵素反応を含む）⑤生体高分子の立体構造	有 機 化 学 領 域	①反応機構 ②有機合成 ③有機化合物の構造解析 ④生理活性物質の化学と作用	生 化 学 領 域	① 生体分子（核酸、アミノ酸、糖、脂質） ②タンパク質の構造と機能 ③酵素反応 ④代謝（グルコース、グリコーゲン、クエン酸サイクル、電子伝達と酸化的リン酸化、脂質）⑤生体膜と膜輸送 ⑥DNAの複製、転写と翻訳 ⑦細胞の情報伝達	応 用 微 生 物 学 領 域	①分類・細胞構造 ②生理・生態 ③代謝・酵素 ④遺伝・ゲノム情報発現 ⑤発酵生産・バイオコンバージョン	植 物 科 学 領 域	①植物細胞の構造 ②植物の無機栄養元素 ③光合成 ④二次代謝
物 理 化 学 領 域	①酸塩基反応 ②酸化還元反応 ③基礎化学熱力学 ④反応速度（酵素反応を含む）⑤生体高分子の立体構造										
有 機 化 学 領 域	①反応機構 ②有機合成 ③有機化合物の構造解析 ④生理活性物質の化学と作用										
生 化 学 領 域	① 生体分子（核酸、アミノ酸、糖、脂質） ②タンパク質の構造と機能 ③酵素反応 ④代謝（グルコース、グリコーゲン、クエン酸サイクル、電子伝達と酸化的リン酸化、脂質）⑤生体膜と膜輸送 ⑥DNAの複製、転写と翻訳 ⑦細胞の情報伝達										
応 用 微 生 物 学 領 域	①分類・細胞構造 ②生理・生態 ③代謝・酵素 ④遺伝・ゲノム情報発現 ⑤発酵生産・バイオコンバージョン										
植 物 科 学 領 域	①植物細胞の構造 ②植物の無機栄養元素 ③光合成 ④二次代謝										

専攻	出 題 説 明
応用生物学	専門科目(1)は、応用生物科学分野の学習・研究を行うに当たり必要となる知識について、生物学の基礎に関する問題を出題する（全問解答のこと）。 “生物学の基礎”とは、『エッセンシャルキャンベル生物学』に準ずるような、広く使用されている教科書の中で扱われている事項全般に関する基礎的内容である。 専門科目(2)は、各専門種目（植物遺伝学、栽培植物起原学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、動物遺伝育種学、生殖生物学、動物栄養科学、生体機構学、畜産資源学、海洋生物環境学、海洋生物増殖学、海洋分子微生物学、海洋環境微生物学、海洋生物生産利用学、海洋生物機能学、里海生態保全学）から出題する。 ※専門科目(2)は第1志望の専門種目についてのみ解答すること。
地域環境科学	専門科目(1)は、地域環境科学一般から出題する。 専門科目(2)は、各専門種目（比較農業論、熱帯農業生態学、土壌学、微生物環境制御学、生態情報開発学、施設機能工学、水資源利用工学、水環境工学、農村計画学、放射線管理学、農業システム工学、フィールドロボティクス、生物センシング工学）から出題する。 ※専門科目(2)は第1志望の専門種目についてのみ解答すること。
生物資源経済学	専門科目(1)は、生物資源経済学一般から出題する。 ※生物資源経済学一般の問題は、生物資源経済学に関わる小論文形式および基礎概念に関する共通問題である。 専門科目(2)は、各専門種目（農業食料組織経営学、経営情報会計学、地域環境経済学、食料・環境政策学、森林経済政策学、国際農村発展論、比較農史学、農学原論）から出題する。 ※専門科目(2)は第1志望の専門種目についてのみ解答すること。

専攻	出 題 説 明		
食 品 生 物 科 学	専門科目(1) (100点満点) は、「生化学」、「有機化学」、「物理化学」の3領域に関連する問題を出題する。各領域から2問題の計 6問題のすべてを解答 すること。		
	専門科目(2) (100点満点) は、「生物有機化学」、「食品生物工学」、「生化学・酵素科学」、「応用微生物学」、「栄養科学」、「食品科学」の6領域から出題する。各領域から1問題の計6問題の中から 2問題を選択して解答 すること。これとは別に、応用微生物学、栄養科学、食品科学領域から英文和訳問題を含む英語関連の 2問題の全てを解答 すること。		
	各領域の出題範囲は次表のとおりである。		
	専門科目(1)	生化学	タンパク質、糖質、脂質の構造 解糖系・クエン酸回路・電子伝達系 遺伝子とタンパク質の生合成
		有機化学	有機化合物の構造と化学結合、立体化学 酸・塩基反応と解離定数、酸化と還元 基本的な有機化学反応（付加、脱離、置換）
		物理化学	気体と溶液の性質、熱力学、相平衡、化学平衡、電解質溶液と電池、反応速度論、光化学
	専門科目(2)	生物有機化学	有機化学反応全般ならびに反応機構 機器分析による構造決定
		食品生物工学	物質収支、水分と乾燥、伝熱・殺菌、物質移動、レオロジー、界面化学、バイオリアクター
		生化学・酵素科学	生体分子の構造と機能 代謝と生体エネルギー論
		応用微生物学	微生物の分類・形態・増殖 代謝と発酵、遺伝子と情報伝達
栄養科学		栄養素の消化・吸収、エネルギー代謝 栄養素の代謝	
食品科学		食品成分の化学と機能 食品の成分変化と品質	
出題等の詳細については、食品生物科学専攻HP（ http://www.food.kais.kyoto-u.ac.jp/ ）の大学院入試情報をご覧ください。			
			

